



夏のひととき (撮影：名誉院長 山口淳正)

目次

● ー職場紹介ー	2
● ー活動報告ー	6
● ー新任医師紹介ー	9
● ーアクセスのご案内ー	10

職場紹介

「リハビリテーション室」のご紹介



鹿児島市医師会病院 リハビリテーション室主査
理学療法士 前野 裕一

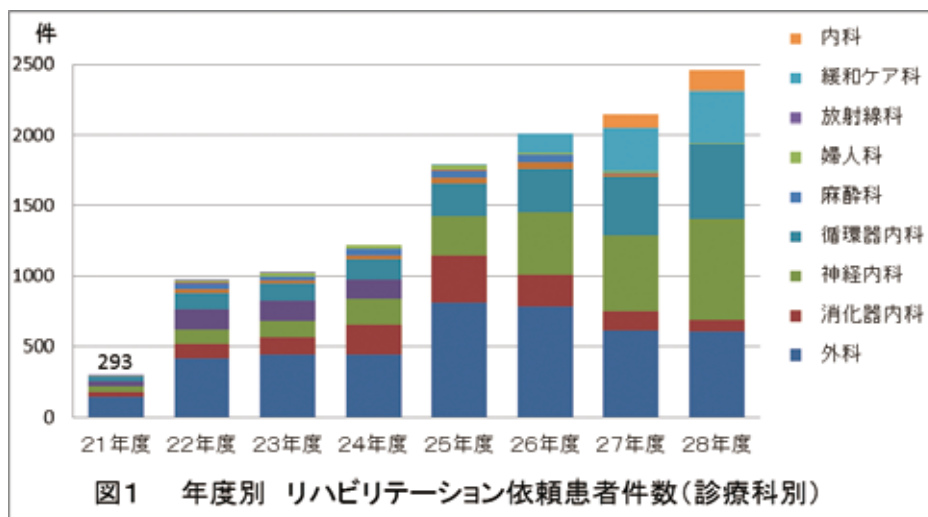
リハビリテーション室は、平成20年10月に開設してから、9年が経ちました。最初は5人でスタートしましたが毎年徐々に増員していただき、現在はリハビリテーション室室長である神経内科部長中川広人医師を中心に、理学療法士15人、作業療法士5人、言語聴覚士3人、リハビリ助手1人と総勢25人体制で、リハビリテーション室を運営しています。

リハビリテーション室は、別館5階と別館6階の2カ所あり、特に別館6階は、桜島が展望でき開放感あふれたロケーションとなっておりリハビリに最適な場所となっております。リハビリ対象者以外の患者様も散歩の途中に寄ったりされています。

療法士数を増やしていただいたことにより、継続したリハビリテーションの実施が可能となり、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と各療法士の専門的視点から介入することが可能となりました。各病棟では他職種が参加した合同カンファレンス等を定期的に行い、情報共有、方向性への統一を図っています。

リハビリテーション依頼患者件数は、開設以来毎年増加傾向にあり、多くの患者様へリハビリ提供しています(図1)。

- 基本方針：専門性を追求した効果的なりハビリテーションを提供します
- 基本目標：
 1. 患者サービスへの貢献
 2. 早期対応・早期離床
 3. 働きやすい環境づくり
 4. 最新リハ医学の修得
- 疾患別リハビリテーション料
 - ・心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
 - ・脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 - ・廃用症候群リハビリテーション料 (I)
 - ・呼吸器リハビリテーション料 (I)
 - ・運動器リハビリテーション料 (I)
 - ・がんのリハビリテーション料
 - ・摂食機能療法



言語聴覚士

言語聴覚士（ST）の活動報告



鹿児島市医師会病院
言語聴覚士 竹迫芳乃

鹿児島市医師会病院には今年から2人加わり現在3人在籍しております。表に示した様に平成28年度は脳血管リハビリ、摂食嚥下療法を中心に携わらせて頂いていました。入れ替わったばかりで、まだまだ不慣れな所も多々ございますが「患者様のQOLを高めるために少しでも質の高

いりハビリテーションを提供する」事を目標にと日々精進しております。物療機器導入の検討や9月以降はがんのリハビリにも着手しリハビリテーションの幅を広げて行こうと考えております。

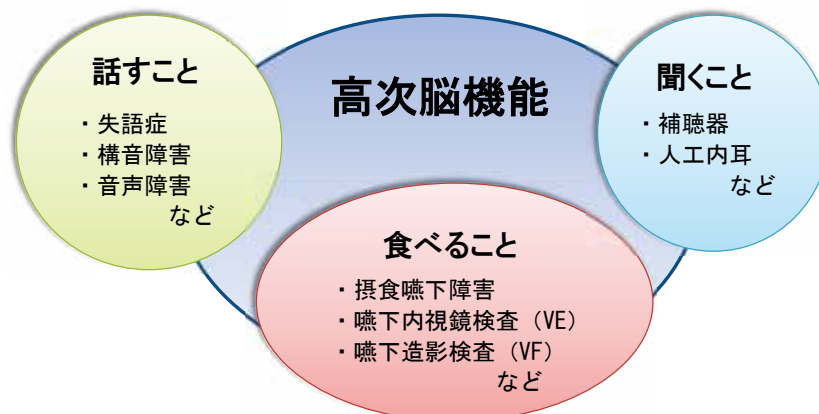
STでは介護予防推進リーダー、地域包括ケア推進リーダーの資格を取得し、専門的な視点で鹿児島市の地域住民が安心安全豊かな生活が送れる様、頑張っていこうと考えております。

去年の介入患者数にはまだまだ及びませんが一人でも多くの患者様に「ありがとう」「ここに来て良かった」と思っただけの様に、患者様、地域に寄り添い、鹿児島市医師会病院らしい言語聴覚療法を提供していけるよう邁進していこうと思います。

言語聴覚士のお仕事

私たち言語聴覚士は通称 ST と呼ばれています。話す事、言語、聞く事のセラピストですが、それに加えて、摂食・嚥下機能障害もリハビリの対象となります。さらに細かくみていくと、小児、成人と専門性が分かれてきます。現在鹿児島市医師会病院では、言語障害、高次脳機能障害、摂食嚥下障害等を対象にリハビリ介入を行っています。

ST=Speech—Language—Hearing Therapist の略称



作業療法士

作業療法士の活動報告



鹿児島市医師会病院
作業療法士 早川 真人

現在、作業療法士は、5人体制にて活動しています。基本的に各患者様の他の病棟への転棟にかかわらず、ご退院の段階まで一貫して同じ療法士が担当を継続させて頂いています。それは初期と現在までの変化が把握でき、他部門に対する情報の提供・共有が図れ、円滑にリハビリテーション進行できるという利点が挙げられます。今後一層患者様1人1人が「その人らしい生活」を再構築するための作業療法の提供を目指します。

前年度は総患者数6,342人の方に対し作業療法を実施させて頂きました。そのうち脳血管疾患の方が大半を占めており一般病棟から地域包括ケア病棟まで3,871人の対象者がいらっしゃいました。脳血管疾患における作業療法の提供が特色の一つとなっています。

作業療法の仕事内容

身体障害の作業療法の目的として以下が上げられます。

1. 身体機能面への働きかけ

作業活動を通じて、実際の生活に必要な筋力、

関節の動き、感覚機能などの維持・改善をはかると共にスムーズな動きや耐久性の獲得などを行います。

2. 高次脳機能面への働きかけ

生活に必要な時間・物の扱い方・周囲の状況の認識、物事の記憶、計算、動作の順序や方法を決定し遂行していくなどの能力を評価し、治療・訓練します。

3. 心理面への働きかけ

長期入院や障害により失われやすい精神活動や生活に対する意欲の維持・改善を図ると共に不安を和らげたり、自信づけを行ったりします。

4. 日常生活活動面への働きかけ

食事、更衣、排泄などの身辺動作や家事動作について、その動作が出来ない原因を評価し、その人に合った適切なやり方・介護の方法を訓練・指導します。

5. 職業復帰への働きかけ

職場復帰や就職に向けて身体機能、作業能力、一般能力（学習能力、注意力、問題解決能力、移動能力、コミュニケーション能力など）を評価し、プログラムを行います。



理学療法士

理学療法士の活動報告



鹿児島市医師会病院 リハビリテーション室主任
理学療法士 澤 和樹

リハビリテーション室主任、理学療法士の澤と申します。略儀ながら書面にてご挨拶申し上げます。

当院にリハビリテーション室が平成20年に開設されて9年が経過しますが私が入職した5年前まで理学療法士は5人でした。当初5人で全病棟に従事しておりましたがリハビリ対象患者様の増加と需要で療法士を増員、リハビリテーション室を拡充し現在は理学療法士15人（療法士計23人）となりました。

リハビリテーション提供率向上と療法士間の連携強化を目的として4年前から各病棟に専属療法士を配置、急性期病棟では術後・発症早期リハビリから介入し廃用症候群予防と身体機能回復をサポートしています。またがんリハビリ修了士、心臓リハビリ指導士、呼吸療法認定士が従事しており専門的視点からもリハビリテーションを提供しております。

急性期を過ぎても能力向上を必要とする場合は地域包括ケア病棟にてリハビリ継続は勿論、家屋調査や御家族、医療スタッフ、ケアマネジャーとの情報共有を行うことで在宅復帰支援

へ繋げるといった急性期から回復期、在宅復帰までのシステムを構築しております。

高齢者が急増する近年、地域包括ケアシステムが見直される医療へ遷移しています。これまでは“病気・障害を治すこと”が理学療法としての役割でしたが今後は“生活を続けていくためのリハビリ”へ変わっていきます。同じ病気でも個々の生活環境は違います。自立することがゴールではなく、その人に見合った状態までの回復で日常生活をどのように続けられるかが生活の質向上へ繋がると考えています。

今後もより良いリハビリテーションを提供出来るために私たち理学療法士は切磋琢磨していきます。



活動報告

「認定看護師会」



鹿児島市医師会病院

摂食嚥下障害看護認定看護師 松尾 晴代

当院には、11分野13名の認定看護師が在籍しています。

認定看護師会では、「認定看護師が自律した活動が出来るように支援する」「看護現場における看護ケアの質の向上に貢献する」ことを目的に、活動を行っています。具体的には、自己研鑽と情報共有・看護の質を高める・看護師の教育・活動の広報を行うことです。

病棟看護師と認定看護師の連携が統一して行えるように、認定看護師の活動日や連絡方法、相談内容が明記された「認定看護師の活動状況一覧」を作成しました（表1）。今年度は、看護師の教育に携わる具体的活動として、「院外研修の実施」を計画しています。5分野の認定看護師が、テーマに沿って講師を担当し、講義や演習を行う予定です。教育委員会研修の実施や、

認定看護師を志望するスタッフの支援を継続しています。また、活動の広報として、毎月輪番制で「認定看護師だより」を発行し、ホームページにも掲載しています。

シームレスな看護を意識した活動を、各領域で実践するだけでなく活動状況の報告や問題解決に向けて検討すること、実際に認定看護師同士で連携をはかったことを事例として報告し、看護の質的評価も行う予定です。また、認定看護師は常に自己研鑽に努めることが必要です。学会参加報告のみならず、抄録や症例報告、論文などの査読を行い、共有することで、臨床現場での実践、指導、相談に活かせるように日々学びを深めていきたいと思っています。

表 1. 認定看護師の活動状況一覧 (2017.6 月以降確認・発行)

認定看護領域	認定看護師名	所属部署	活動日・連絡方法	主な相談内容・役割
糖尿病看護	福島 綾子	総合外来	特定日なし	療養指導・血糖測定 自己管理注射指導
皮膚・排泄ケア	櫻木 真理子	5階病棟	火曜日	ストーマサイトマーキング 創傷・ストーマ・失禁関係
がん化学療法看護	三浦 ひとみ	総合外来 化学療法室	特定日なし	アレルギー症状出現時や血管外漏出への対応・相談 化学療法全般
手術看護	前田 龍弥	手術室	特定日なし	周手術期全般
救急看護	川畑 さとみ	5階病棟	特定日なし	救急全般
集中ケア	大山 和志	ICU	特定日なし	集中ケア全般 (呼吸ケアなど)
感染管理	濱田 亜弥	感染管理室	随時	感染対策全般
	折田 富之	6階病棟	特定日なし	感染対策全般
摂食・嚥下障害看護	松尾 晴代	6階病棟	火曜日 NST・嚥下回診	摂食嚥下評価・食事介助指導 摂食嚥下リハ、リハ栄養全般 口腔内評価・口腔ケア指導
認知症看護	竹迫 香奈	7階病棟	水曜日	認知症看護全般・譫妄全般
がん性疼痛看護	吉田 美佐登	8階病棟	特定日なし	がん性疼痛全般
緩和ケア	栄 智美	5階病棟	特定日なし	緩和ケア全般
	吉村 満喜子	8階病棟	特定日なし	緩和ケア全般

病棟勉強会依頼は、勤務調整の関係上早めにご連絡ください。また、勉強会は原則 17 時以降となります。
MIRAIs の伝言事項 (メール) で連絡する場合、概要だけを記入し、絶対に患者の個人情報を入力しないでください。



活動報告

鹿児島市医師会病院ジョギングクラブ報告



鹿児島市医師会病院

鹿児島市医師会病院緩和ケア科 大瀬 克広

鹿児島市医師会病院ジョギングクラブは、桜島マグマ駅伝出場をきっかけに他職種（事務、薬剤師、理学療法士、看護師、医師）の有志が集まって自然発生的に始まった団体です。病院公認の団体ではなく、あくまでも同好者の集まりであり、基本的に練習は各個人で実施。LINEによって連絡を取り合い、月2回程度のマリポートで合同練習とその後の飲み会は行いますが、基本的に出席の強制はありません。その活動を通じて、各自が指宿菜の花マラソン、鹿児島マラソン、リレーマラソンへの出場や応援をしています。

このような病院内での集まりのメリットは、やはり院内での顔の見える関係の構築にあるのではないかと思います。現在の医療で必須とされる医療機関同士の地域連携を行う上で、顔の見える関係を構築することが重要とされています。しかし、他院との連携以前に医師会病院の中でも普段の業務や会議の場以外で、院内での顔の見える関係を作る機会は意外と少ないの

で、このような活動を通じて職員が相互に理解し、自分たちの病院の中にあるリソースや強みを知ると言うことも大切だと感じています。

基本的にはジョギングを通して体を動かすことや皆で集まる楽しさを感じられれば良いわけですが、このような活動を長く続けていくことで院内の融和だけでなく、他院との地域連携につながられればと思いながら活動しています。



新任医師紹介

緩和ケア科 科長 (H29.7.1～)



名 前 そのだ たくろう 園田 拓郎
出身県 鹿児島県
出身大学 宮崎大学
前勤務先 鹿児島大学病院
趣 味 模型

この度、7月から緩和ケア科へ配属となりました。これまでは鹿児島大学の麻酔科で手術麻酔とペインクリニックを行ってまいりました。ペインクリニックでは、運動器関連痛や帯状疱疹後神経痛のほか、特にがん性疼痛や西洋医学的には診断のつかない痛みなどを中心に漢方と神経ブロックで治療を行ってまいりました。漢方は、冷え性や食欲不振といった痛み以外の症状緩和にも有効で、悪液質など痛み以外の症状についても取り組んでいきたいと考えています。神経ブロックについては、腹腔神経叢ブロックや持続くも膜下ブロックなど癌性疼痛領域の神経ブロックを積極的に行っていく方針で現在準備を進めているところです。

外来診療では漢方・ペインクリニック外来を開設することになり、緩和ケア領域以外の患者様についても診療を行います。鹿児島市医師会病院は医師会の先生方との連携が特に重要な病院でありますので、会員の先生方と風通しの良い関係を作れるよう診療を行って参ります。どうぞご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

外科 部長待遇 (H29.7.1～)



名 前 かどの しゅん 門野 潤
出身県 鹿児島県
出身大学 九州大学
前勤務先 鹿児島大学病院
趣 味 釣り

3度目の勤務になります。宜しくお願いします。

外科 医師 (H29.7.1～)



名 前 ながた ゆうき 永田 祐貴
出身県 鹿児島県
出身大学 長崎大学
前勤務先 川内市医師会立市民病院
趣 味 ソフトテニス

7月より赴任しました永田と申します。鹿児島医療センターで研修したのちに鹿児島大学心臓血管・消化器外科学分野に入局し、鹿児島大学病院、川内市医師会立市民病院で勤務し、この度、鹿児島市医師会病院で働かせていただくこととなりました。手術症例が多く、様々な種類の手術を経験できる医師会病院に来ることを以前より心待ちにしていました。精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願いたします。

【 基本理念 】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

【 基本方針 】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

アクセスのご案内



車でのアクセス

鹿児島空港から 車で60分
 鹿児島ICから 車で15分
 鹿児島中央駅から 車で15分
 天文館から 車で15分

駐車場あり



バスでのアクセス

【県庁前】バス停下車/徒歩 1分

路線・時刻はお問い合わせください。

鹿児島市交通局 ☎099-257-2111
 鹿児島交通㈱ ☎099-247-2333
 南国交通㈱ ☎099-255-2141



鹿児島市電をご利用の場合

【郡元】電車下車/徒歩10分

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.30

創刊日：平成17年8月10日
 発行月：平成29年8月
 発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号
 鹿児島市医師会病院 院長 園田 健
 担当：医療連携・相談室
 TEL：099-254-1125（代表）
 FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）
 ホームページ：http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp
 ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。